

担当教員 三尾稔	Instructor Name MIO Minoru			
開講期 後学期	Class Starts at 2 <sup>nd</sup> Semester	開講期間 半期	Period One Semester	対象年次 / Suggested Grade 3,4,5
科目コード / Subject Code 20DRSb05		単位 / Credit 2		
科目名称： 南アジア文化研究		Subject: Lecture (South Asian Studies)		
<p>授業概要：</p> <p>インドのナショナリズムと宗教 / Religion and Nationalism in India</p> <p>講義と演習</p> <p>南アジア各国のナショナリズムの発展には宗教が深く関わってきた。それは現代においても変わりがなく、現代南アジア社会の宗教的言説や実践はさまざまなナショナリズム言説や運動と絡み合っている。この授業では、インドを例として、ナショナリズムと宗教の関わりの歴史的発展プロセスを概観した後、この両者が現代インド社会においてどのように関連しあっているのかを探る。講義を主体とするが、授業参加者の問題関心に応じて関連文献の精読と討論の時間を組み込み、授業テーマに関するより深い理解を促す。</p>				
<p>教育目標・目的：</p> <p>地域文化学専攻の授業の一環として、南アジア地域の文化に関する専門的な研究の素養を身につけることを目的とする。</p> <p>近代以降の南アジアの宗教文化がそのときどきの政治や社会状況とどのように関わりあいながら変容を遂げ、また現在も変容しつつあるのかについて専門的な知識を得ることが出来る。これを通じ、植民地支配と文化表象、ナショナリズムと文化変容などに関する理論のより一般的な理解も深まる。</p>				
<p>授業計画：</p> <p>火曜日 10:30~12:00</p> <p>以下のようなテーマに触れつつ講義を進めてゆく。授業参加者の問題関心に応じて、関連文献の精読と討論も合わせて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 植民地時代以前のインドの「宗教」</li> <li>2. 植民地支配とインド社会―「カースト」と「宗教」の創造―</li> <li>3. ミッションとインドの宗教</li> <li>4. 独立運動と宗教アイデンティティ</li> <li>5. インド・パキスタンの分離独立と宗教</li> <li>6. インド的セキュラリズムと宗教―ネルー時代の政治と宗教</li> <li>7. 宗教ナショナリズムの再興と隆盛</li> <li>8. イデオロギーと宗教実践―聖者廟と都市祭礼</li> </ol>				

成績評価：

授業の前後半各 1 回提出するレポート及び授業期間中に行う精読と討論の内容によって行う。

レポート内容各 35%。精読と討論の内容 30%。

精読と討論は、分担した論文や著作をどれだけ正確に理解できているか、また授業の内容に即した討論がおこなえているか、という観点から評価する。

レポートは、問題設定がその背景にも触れつつ適切に行われているか、その問題についての先行研究を適切にレビューできているか、問題に対して授業内容も踏まえつつどのような新たな知見や解釈を加えて結論を導いているか、という観点から評価を行う。

実施場所：

国立民族学博物館 4 階 4138 室（大学院演習室）

使用言語：

日本語

教科書・参考書：

教科書—なし

参考書—参考文献は必要に応じて講義の中で紹介するが、講義を受ける前に、下記の参考文献を一読しておくことをおすすめする。

小谷汪之 『ラーム神話と牝牛 ヒンドゥー復古主義とイスラーム』 平凡社 1993 年

van der Veer, Peter. Religious Nationalism: Hindus and Muslims in India. University of California Press. 1994

備考：

各回の講義で主要参考文献を示すので、レポート作成時までに文献を読み、レポートの内容に反映させること。

地域文化学専攻・比較文化学専攻の学生のみ履修可。